

1 月度土曜例会 (2016/1/16)

おもてなしと親切の国 **カンボジア**

成長する経済と観光などの今を紹介

プン ソケッチ
Poeung Sokkechさん(カンボジア)



世界遺産のアンコール・ワットで有名なカンボジアは、長い内戦の後遺症に苦しめられてきましたが、新しい体制になった1991年ごろから急速な発展を続け、外資を呼び込み、海外からの観光客も増えています。その国から日本に留学中のプン・ソケッチさん=写真左=が「A General Introduction to the Kingdom of Cambodia」と題して国の全体像のほか、経済と観光について、スライドとビデオを使って説明してくれました。以下は要約です。

自己紹介によると、ソケッチさんは首都、プノンペン出身。同市の王立プノンペン大学日本語学科を2013年に卒業しましたが、その間、東京外大で学んだほか、プノンペンにある日本の大手商社のコーディネーターも務めました。現在は、茨木市に住み、立命館大学の博士前期課程で政策科学を専攻しています。

General Introduction

スピーチはまず、カンボジア国旗=写真右=の説明から。上下の青は自由、協力、それに兄弟愛、赤は力強さ、中央のアンコール・ワットは仏教国などを象徴している、ということ。



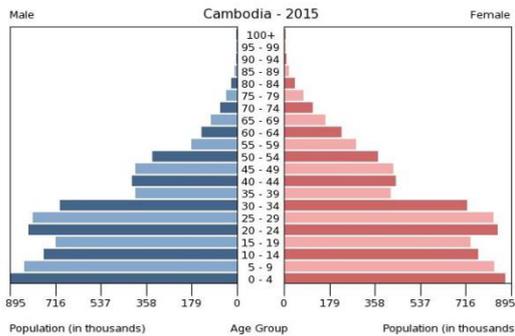
立憲君主制の国で、正式名称はカンボジア王国。面積は181,035平方キロメートル。日本の半分くらいで、人口は1530万人(2014年)。



日本から空路の直行便はなく、バンコク(タイ)経由で約7時間の距離にあります。民族的にはクメール語を話すクメール人が90%。ベトナム人5%、中国人1%、その他4%の比率。宗教は95%が仏教徒でイスラム教、キリスト教徒もいます。

教育制度は日本と同じ6-3-3-4制。四季はなく、雨季(5-10月)と乾季(11-4

月)に分かれます。通貨はリエル (KHR)、1 USD (米ドル) は 4000 リエルほど。



日本と大きく異なるのは人口構成。80歳以上が1000万人を超えた(昨年9月の総務省推計)日本と違って、65歳以上の人口がわずか4%(約60万人)を占めるだけ。カンボジアの人口ピラミッド=左図=が示すように、極端に子供たちの多い若い国です。その理由を調べるとー

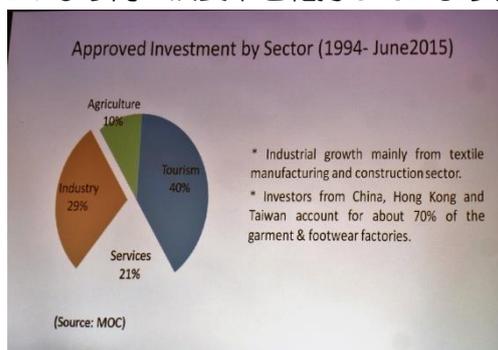
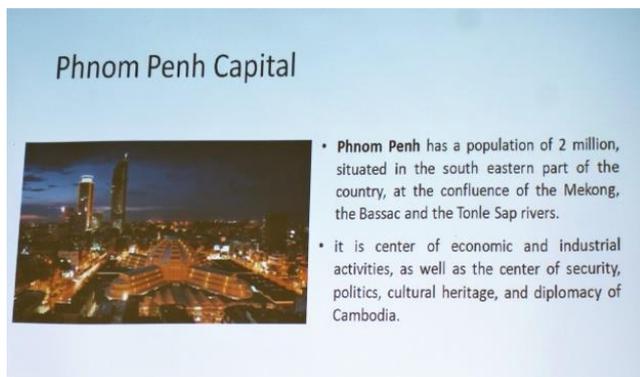
19世紀半ばにフランスの保護国から植民地になり、インドシナ紛争など苦難の時代を経て1953年に独立を果たしたものの、外国からの侵入や内戦が続き、この間、極端な原始共産主義社会を目指したポルポト政権下(1975年~1979年)で、思想改造の名の下に、知識人らの大量虐殺があって、その影響から現在の特異な人口ピラミッドを形成する結果になっています。

経済

1990年に内戦が終わり、その後は平和協定を経て、国連カンボジア暫定統治機構による統治が始まり、国連監視の下で選挙が行われ、立憲君主制を採用して市場経済に移りました。

政治が安定し、治安が良くなり、95年ごろから急速に経済が発展、アセアン(東南アジア諸国連合)、WTO(世界貿易機関)にも加盟し、その後は着実な経済成長を続けています。

GDPは2000年から2008年まで6-13%の伸びを示しました。09年には前年に起きたリーマンショックの影響で0.1%と大きく落ち込んだものの、以後は7%前後のかなり高い成長率を維持しています。2014年は7.1%。



1994年~2015年までのカンボジアの産業の内訳は観光40%、繊維関係工業29%、サービス業21%、農業10%。最近の成長のけん引役は縫製と建設業ということです。農業は主要産業だが、まだ、小規模で生産性は低い。

全体として国民所得は低く、教育もまだ、

不十分ということです。

成長は外国からの投資によるところが大きく、中国、マレーシア、ベトナム、台湾、韓国などから。外資が全体の73%を占め、国内投資は27%と少ない。中国の投資が突出しており、インフラ整備、リゾート開発、水力発電などに向けられている。

これに対し日本の投資はまだ、非常に少なく中国の4%ほど。2012年ごろから増え始め、ソケッチさんによると、イオン・モールが1軒あり、現在2号店を建設中、ということです。

観光

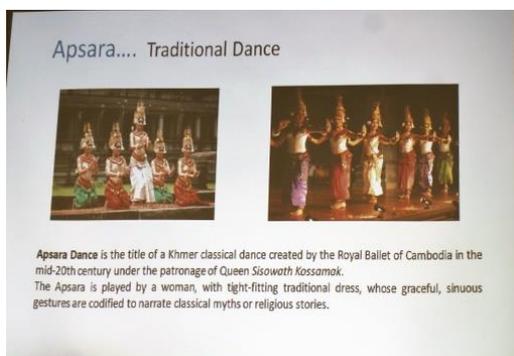
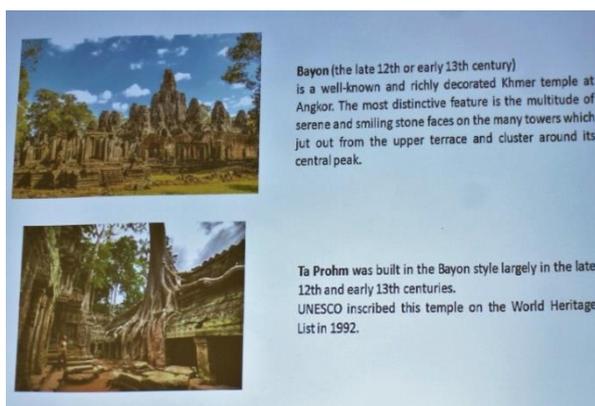


観光の中心はシェム・リアップ。9世紀から15世紀にかけて栄えたアンコール王朝時代のアンコール・ワット遺跡や都城跡のアンコール・トムなど多数あり、1992年、国連の世界遺産に登録されている。トンレサップ湖の北側に広がる広大な遺跡は、特に夕暮れの風景などが美しく荘厳で、世界中からやってくる観光客を魅了しています。

街にはホテルやレストラン、ミュージアムなどもそろい、新年は、ほとんどのホテルが満員になる、といいます。

遺跡の一つ、タ・プロームでは巨大な樹木の根っこが石の建造物に巻き付き、神秘さと同時に木の生命力の逞しさを感じさせています。

クメール王朝時代をしのばせるアプサラという女性による古典舞踊が一部のホテルなどで楽しめます。古代の神話や宗教的な物語を題材にしており、体にぴったりの伝統衣装をまとった女性の優雅でしなやかな踊りが魅力。



人口200万人の首都、プノンペンには、政治経済の中心だが、国王の宮殿、フランスからの独立を記念したモニュメント、国立博物館などがあり、最近では超高層ビルも建ち始めて、観光客を楽しませている。

このほか、大自然にあふれたコーコン・リゾート、タイ湾に面したシアヌーク・ビルなどは、癒しの場として外国人観光客の人気を確実に高めている、ということです。

カンボジア人の気質は仏教の影響もあって、日本と同様、おもてなしの心が強く親切と言われています。この気質は観光産業の発展にも大いに貢献しそうです。

ソケッチさんは最後に、日本人がカンボジアで生産に成功したKurata Pepper について語ってくれました。農業に最適の地として、この地を選び、有機栽培によって最高の品質と言われる胡椒の生産に成功した「くらた」という人で、このKurata Pepper が近い将来、カンボジアからの輸出に大いに貢献しそう、と期待されているそうです。



主な質疑応答

ー日本に住んで、日本とカンボジアの文化・習慣の違いを感じますか？

A: 「カンボジアでは老人に敬意を表しますが、若い人に対してはそれほどではない。しかし、日本では、コンビニなどでも年長者が若い人に対しても敬意を表し、ていねいです。

また、私は日本のおもてなしの文化が好きです。

ーカンボジアは若い世代が多いようですが、あなたの兄弟はどんな具合？

A: 私には兄弟姉妹が5人います。私の世代では兄弟姉妹が5、6人は普通のこと。ただ、最近では子供は2~3人という家庭が増えているようです。都市と地方によって差があると思いますが。

私の家族は全員、中国語を話せる。一番上の姉は英語で仕事をしており、2番目は中国語の先生、3番目の兄はベトナムで勉強中。4番目は私（英語と日本語）、5番目は薬剤師を目指しており、フランス語ができる。カンボジアの教育水準は年々、高くなっています。高校生くらいから国の奨学金を目指して勉強する学生が多いです。

ーカンボジアの若者の結婚年齢は？

A: 都会ではたぶん、22~25、26歳、地方では18~23歳と思います。

